

同窓会会員の皆様へ

母校創立五十周年を祝す

同窓会会長 大栗利夫

母校を支えて

梅雨明け間近のうつとうしい毎日ですが、会員の皆様にはご健勝にてご活躍のことと心からお喜び申し上げます。

と汗を流したものでした。つるはし片手にグラウンドをならしたり、植林したり、石を拾ったり芝を植えたりと、とにかく一所懸命でした。一期生の私としてはその当時のことを今でも懐しく思い出します。私に限らず草創期に母校で学んだ方ならば、きっと同じ思いをしていることでしょう。

その母校も今年で五十周年。早いものです。今では県下屈指の私学としてその名をはせるま

護者・同窓生が一丸となつて教育に邁進してきた賜物であると思つております。同窓会も微力ながら母校の発展を文えてまいりましたが、その甲斐があつたものと心から喜んでおります。

同じ建学の精神のもと

でになつてお
ります。進学
実績は言うに
及ばず、「頭の
力・心の力・
体の力」の調
和のとれた人
間形成を実践
する数少ない
高校として称
賛され、各界
より高い評価を得ています。こ
れもひとえに初代校長佐々木周
二先生、二代目校長木村好成先
生のご指導のもと、教職員・保



梅雨に映える紫陽花

は毎日のように新聞紙上を賑わしてお
り、大学進学に關しても
押しも押されぬ進学校として、
多くの人たちの期待に応えてい
ます。躰の厳しい私學として産
声を上げてより以来、嘗々とし

新制服に改定

新制服に改定 新風吹き抜ける

梅雨するようになり、最近ではお孫さんも入学していると聞いています。二世三世と同じ建学の精神のもと、勉学にスポーツに汗を流すことができるのも、また私学の素晴らしさではないかと思います。

は毎日のように新聞紙上を賑わしており、大学進学に關しても押しも押されぬ進学校として、多くの人たちの期待に応えていきます。駆の厳しい私學として産声を上げてより以来、嘗々として取り組んできた甲斐があつてか、栃木県をはじめとして北関東一円より通学して来ています。同窓生の子さんも多数入学映えます。同窓生のお

に紫陽花

今、世界情勢は大きく揺れ動いています。毎日のように暗いニュースが目にとまります。混沌とした二十一世紀に生きる私達にとつて、国際的視野に立つて考へ、行動する時が来ていました。経済大国日本にも陰りが見られはじめ、戦後の教育も抜本的に見直す必要に迫られています。日本のあるべき姿を真剣に考え、グローバル化している中

同 窓 生 に 期 待

A photograph of two students in school uniforms. The student on the left is a girl wearing a dark blazer over a white collared shirt and a plaid skirt, with long dark hair. The student on the right is a boy wearing a dark blazer over a white collared shirt and dark trousers, with short dark hair.

A full-body photograph of a young girl standing against a plain white background. She is wearing a school uniform, which includes a white short-sleeved polo-style shirt tucked into a grey plaid knee-length skirt. She is also wearing black knee-high socks and black shoes. Her dark hair is styled in two long pigtails.

同窓生に期待



天野寿々子

英語科

平成元年に野球部の部長に任命されました。野球に関して素人だった私は、自分の役目としてまずは監督と部員たちが練習しやすくなるような環境を作ろうと心掛けました。野球部の諸問題の解決や全体の調整役となるだけでなく、生徒の健康管理や通院援助、グラウンド整備や部室のロッカー作りなど部員のためになると思ったことは何でもしました。部員一人ひとりの様子を観察することを怠らず、少しの変化も見落とさないよう努め、ベンチから部員を見守り叱咤激励することが日課となりました。毎日部員との会話が楽しみになり、技術のみならず精神的な向上を共に実感できることが何ものにも代えがたい喜びがありました。更に幸運にも甲子園出場も果たせ、二人のプロ野球選手を誕生させることにも携わることができたことは自分にとって幸せなことでした。最後に母校は今年創立五十周年を迎えます。発展しました太平台の雄姿を是非ご覧下さい。

卒業生の皆さん、元気でお過ごしのことと思います。私はこの三月で定年退職いたしました。八期生の皆さんと共に本学園に奉職し、四十三年間大病もせず勤められたことは周囲のすべての方々のお陰と感謝の念で一杯です。

振り返りますと、英語を担当すると共にいろいろな校務分掌、学校行事にたくさん思い出があります。

生徒会本部スタッフの國學院祭への取り組みは忘れられません。テーマ決定まで毎日遅くまで討論、そして夏の蓼科での研修では、各参加団体および来校の方々への配慮等、数十枚にわたる資料をもとに机二千余中の一個の移動まで検討したこと、蓼科山頂の三百六十度の景色は、登る時の辛さをすっかり消しされました。

恒例の国際情報科の教養講座が去る平成二十一年十一月十九日(木)母校四十周年記念館において、全学年を対象に実施され。

講師の古田佳子さんは、普通科二十五期卒業生で、民謡の全国大会で一度優勝(内閣総理大臣賞)した実績の持ち主で、現在民謡歌手として多くの公演をこなしています。文化祭のゲートづくりや、横断幕の材料の調達から作成まで、どれもこれも毎年知恵をしぼり、見事に実現してきた皆さんの底力に多くのことを教えられました。文化祭片付終了後、中庭に無言で座り込んでいるスタッフ一同には、かけ露するなど大変精力的に活動している言葉がありませんでした。生徒会活動は「縁の下の力持ち」ですが、皆さんは大きく成長し、現在もある経験が糧となり活躍していると信じています。

八歳から民謡を学び、ティチクレコードの民謡歌手八木沢栄久氏に師事。その後、日本民謡協会認証教授を取得し、後進

を越したことありました。どれも皆さんと熱くなり、笑い、泣きの出来事でした。

そして一昨年は、母の最期に思いがけず卒業生に手厚い看護をしていただきました。国内外共に不安の続く現在、順調に進む時ばかりはないかも

クラスでは、運動の苦手な私に貴重な経験をさせてもらいました。運動会で走るといつもビリの私を、体育祭の「担任送り」ではトップの座につかせてくれ、また野球部員は応援に甲子園へ、ラグビー部員は花園へと連れて行ってくれ、大阪への往復で年

を越しました。どちらも皆さんと熱くなり、笑い、泣きの出来事でした。

そして一昨年は、母の最期に思いがけず卒業生に手厚い看護をしていただきました。国内外共に不安の続く現在、順調に進む時ばかりはないかも

民謡を通して国際交流

国際情報科
教養講座



古田佳子さん
字通り民の歌で
歌う歌など数多くの
歌一つ一つに
熱唱する歌が全国各地に
残っており、そ

「言葉が通じない外国人であっても、民謡を通じて国際交流はできるはず」と、ベトナム・中国・ロシア・マレーシア・リトニア・オーストリアなど多くの国に出かけ交流を深めている。

最後に正調「南部牛追歌」が披露されると、その声量のすごさと記念館に広がる澄みきった張りのある歌声に、生徒たちは圧倒され聞き惚れていた。

その地方の民の生活や心情が、そして歴史や風習が織り込まれているからこそ多くの人に感動を与える、心を動かすことができるのであります。」と語る古田さんの言葉は輝いていた。

数年前より、一胡奏者の張曉

しきませんが、そういう時こそ「國學院栃木」で素直にひたむきに物事に取り組んでいた時を思い出して前進して下さい。

私も皆さんの活躍している姿を思い浮かべながら、それを励みに、次の夢を追っていきたいと思います。

母校の歩み

昭和三十五年、光明媚な太平山の麓に本館一棟で開校した母校が、創立五十周年を迎えた。この間着実に飛躍・発展を遂げてきた。その歩みを写真でたどることとする。古き卒業生は、現在の発展した母校の姿を、近年の卒業生は草創期の姿とその歴史を見て欲しい。

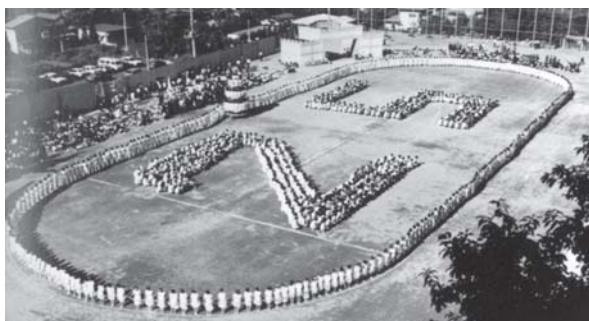
▶五周年時の学園坂
(昭和39年)



◀グラウンド整備の野球部員
(昭和35年)



▲一番奥に本館。その手前が旧南館。
一番手前が武道場。右は建築中の東館（昭和39年）



▲体育祭にて、普通科 1755 名、商業科 486 名による創立 25 周年を祝す人文字（昭和 60 年）



▲初代校長佐々木周二先生を顕彰する寿像除幕式は創立 25 周年の節目であった。（昭和 60 年）



▶創立三十五周年の節目に中学校
翌設置認可（平成 7 年）
第一期生が入学



◀二層四階建ての第二体育館
(昭和 62 年竣工)

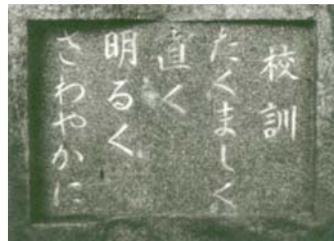


▲第一体育館完成（昭和42年）

創立50周年

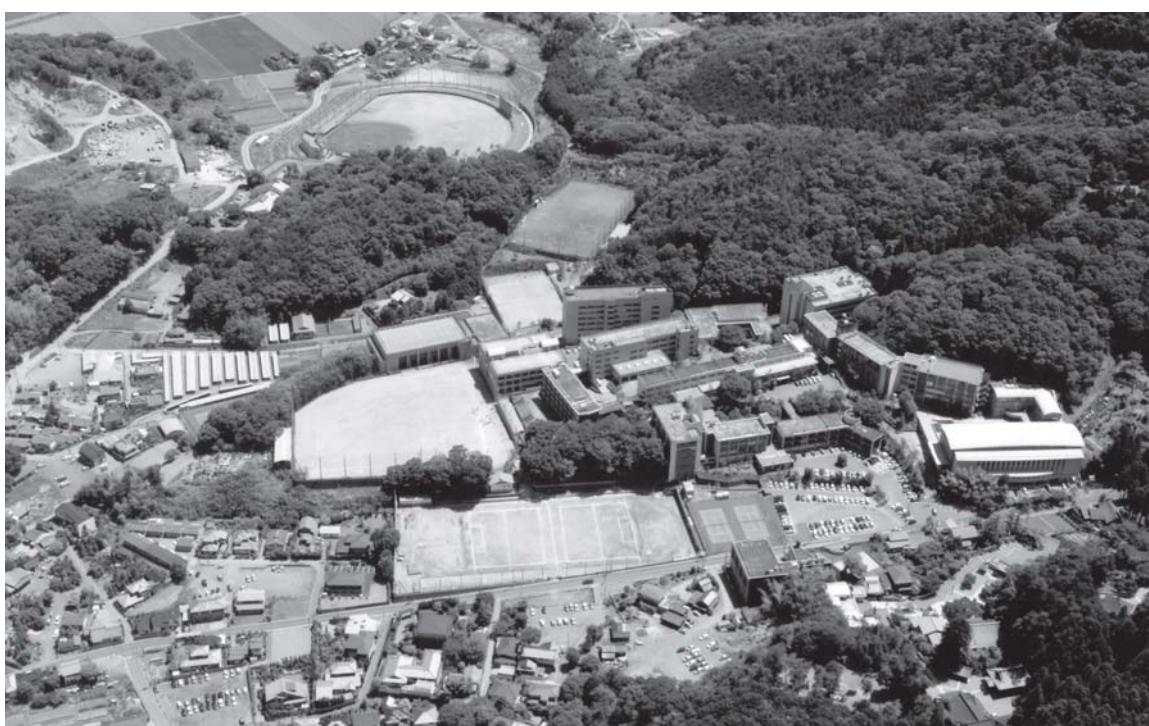
▼現在は同地に四十周年記念館が聳える
(平成12年)

◀校訓除幕式（昭和44年）



▲昭和42年に制定された校訓

▲四十周年記念館内部。左の写真はメインフロア。右写真は同会場を講堂として使用した場合の状態。収納式座席となっている。



現在の学園全景
一番奥には両翼
120mの野球場
その手前はラグビー
場（平成8年竣工）
（平成14年竣工）

平成22年度入試主な合格校

国立大学		計	私立大学		浪人	合格校	
合格校			合格校			合格校	
秋田大学	1	1	青山学院大学	1	帝京平成大学	7	
茨城大学	3	3	跡見学園女子大学	2	東海大学	10	
岩手大学	1	1	桜美林大学	3	東京家政大学	10	
宇都宮大学	11	11	大妻女子大学	4	東洋工科大学	8	
小樽商科大学	1	1	嘉悦大学	2	東京工芸大学	3	
北見工業大学	6	6	学習院大学	5	東京女子大学	4	
京都工芸繊維大学	1	1	学習院女子大学	2	東京電機大学	4	
群馬大学	2	2	関西大学	2	東京都立大学	4	
埼玉大学	3	3	関西学院大学	1	東京農業大学	19	
静岡大学	1	1	神田外語大学	1	東京福祉大学	4	
信州大学	1	1	北里大学	10	東京薬科大学	1	
千葉大学	2	2	共立女子大学	2	東京理科大学	7	
筑波大学	3	3	杏林大学	2	東邦大学	6	
東京大学	1	1	慶應義塾大学	1	東北福祉大学	1	
東北大学	1	1	恵泉女学園大学	2	東洋大学	14	
鳥取大学	1	1	工学院大学	4	獨協大学	12	
富山大学	2	2	国際医療福祉大学	20	獨協医科大学	7	
新潟大学	1	1	駒澤大学	5	日本大学	28	
弘前大学	1	1	埼玉医科大学	2	日本工業大学	8	
室蘭工業大学	1	1	埼玉工業大学	2	日本獣医生命科学大学	3	
山形大学	7	7	自治医科大学	4	日本女子大学	4	
山梨大学	1	1	実践女子大学	5	日本女子体育大学	5	
愛知県立大学	1	1	芝浦工業大学	12	日本体育大学	2	
青森公立大学	9	9	十文字学園女子大学	3	日本薬科大学	1	
秋田県立大学	5	5	淑徳大学	4	白鷗大学	13	
岡山県立大学	1	1	順天堂大学	2	フェリス女学院大学	4	
釧路公立大学	10	10	城西大学	5	文教大学	13	
群馬県立県民健康科学大学	1	1	上智大学	4	文京学院大学	3	
群馬県立女子大学	3	3	昭和大学	1	法政大学	8	
静岡県立大学	1	1	昭和女子大学	7	武蔵野大学	5	
高崎経済大学	2	2	昭和薬科大学	1	武蔵野美術大学	3	
都留文科大学	5	5	女子栄養大学	2	明治大学	8	
名寄市立大学	1	1	白百合女子大学	2	明治学院大学	8	
奈良県立大学	1	1	成蹊大学	3	日白大学	5	
新潟県立大学	1	1	成城大学	6	ヤマザキ学園大学	3	
公立はこだて未来大学	2	2	専修大学	8	立教大学	5	
前橋工科大学	1	1	創価大学	2	立正大学	4	
横浜市立大学	1	1	大正大学	2	立命館大学	1	
防衛大学校	16	16	大東文化大学	6	龍谷大学	3	
合	計	113	拓殖大学	5	早稲田大学	4	
			玉川大学	4	その他の	72	
			多摩美術大学	2	合計	540	
			千葉工業大学	11			
			中央大学	8	國學院大學	150	
			帝京大学	24	國學院大學栃木短期大学	15	

二〇一〇年入試の特徴は、九年ぶりに十八歳人口が増加したことや、不況を背景とする「国立大学志向」「地元志向」が高まったことである。

志願者数が一万四千人も増加しており、受験生にとっては厳しい状況となつた。

母校の入試結果

願者数が減少し、明治大学を始めとする「G M A R C H（学習院・明治・青学・立教・中央・法政」や、「日東駒専」レベルの大学で志願者が増加した。なお、國學院大學一般入試においても前年比一一四%の志願者数となつた。

東京大学文科三類に合格者が出了のを始め、東北大学や筑波大学にも合格者が出て、国公立大学合格者数は一二三名となつた。また、今年度も国立大学の医学部医学科に合格者が出了。私立大学においても、早慶上智、G M A R C H の上位十校に六四名が合格し、よく健闘した。國學院大學には前年を上回る一五〇名、國柄短大には一五名が合格した。

二千円
16 13 10 5
四千円
17 6
五千円
18 17 17 17 17 17 17 17
一万円

進學狀況

東京大学文科三類に合格

願者数が減少し、明治大学を始めとする「G M A R C H」（学習

東京大学文科三類に合格者が出了のを始め、東北大学や筑波大

会費納入者芳名

本校卒業生で早稲田大学三年生の萩原宏樹選手が、今年三月に行われた「フェンシング」の「二〇一〇年アジアジュニア選手権大会」に日本代表として出場し、個人・団体ともに銀メダルを獲得した。本校在校時には二年生の時、全国高校総体で二位、世界ジュニア選手権選考会で優勝という実績を上げている。今回は、アジアジュニア選手権大会の様子や、今後の活動・抱負について書いてもらつた。

私は、三月八日～十五日にフィリピンのマニラ市にて開催された二〇一〇年アジアジュニア選手権大会に日本代表として出場してきました。日本代表として海外で試合をするのが高校三年時に初めてトレスコ、カザフスタンに次いで三度目でした。そのためかあまり海外の雰囲気に呑まれることもなく、平常心で自分のフェンシングが出来ました。それによりジュニア最後だったので『絶対勝つ』という強い意志を持って試合に臨みました。順調に勝ちすすみ、決勝戦をむかえました。相手は強豪の韓国でした。序盤はリードをしていたのですが、相手選手の威圧感に押され、一本勝負となりました。結果は負けてしまい、銀メダル

普通科46期 萩原宏樹選手



下野新聞社3月17日付より

という形でジュニア最後の試合を終えることとなりました。金メダルを獲得することは出来ませんでしたが、勝ちたいという強い気持ちがなければ、このような結果に繋がらなかつたと思います。とても嬉しかったです。

今後の抱負としては、現在オリンピック強化指定選手となつてるので、これまで以上に努力を重ねて、夢でもあるオリンピック出場を果たしたいと思います。また、早稲田大学では主将を任せられてるので、個人のスキルアップだけでなく、チームのために誠心誠意頑張っていきたいと思います。

二つ目は、努力をすれば目標は達成出来るということです。私は中学三年間一度も全国大会に出場出来ずに終わってしましました。そこで、高校では必ず全国に出場して優勝するという目標を胸に刻み、毎日努力をしました。今回の優勝で自分の努力は無駄ではなかったことが分かり、努力を続けることの大切さを知ることが出来ました。

私は春の全国選手権個人戦で優勝することができ、二つのことを学びました。一つ目は、優勝したときに自分のことのように泣いて喜んでくれる仲間、そしていつもお世話になつている先生方や親の大切さです。周りの方々の応援や支えがあつたからこそ、優勝出来たのだと強く思いました。

二つ目は、努力をすれば目標は達成出来るということです。私は中学三年間一度も全国大会に出場出来ずに終わってしまいました。そこで、高校では必ず全国に出場して優勝するという目標を胸に刻み、毎日努力をしました。今回の優勝で自分が努力は無駄ではなかったことが分かり、努力を続けることの大切さを知ることが出来ました。

春の全国大会で優勝することが出来てとても嬉しかつたです。しかし、今回の優勝は夏の全国高校総体への通過点です。この

高校柔道選手権で、見事に優勝を飾った塚田選手に、その時の想いと今後の抱負を書いてもらつた。

私は春の全国選手権個人戦で優勝することができ、二つのことを学びました。一つ目は、優勝したときに自分のことのように泣いて喜んでくれる仲間、そしていつもお世話になつている先生方や親の大切さです。周りの方々の応援や支えがあつたからこそ、優勝出来たのだと強く思いました。

二つ目は、努力をすれば目標は達成出来るということです。私は中学三年間一度も全国大会に出場出来ずに終わってしまいました。そこで、高校では必ず全国に出場して優勝するという目標を胸に刻み、毎日努力をしました。今回の優勝で自分が努力は無駄ではなかったことが分かり、努力を続けることの大切さを知ることが出来ました。

春の全国大会で優勝することが出来てとても嬉しかつたです。しかし、今回の優勝は夏の全国高校総体への通過点です。この

会員だより

母校は創立五十周年を迎える三万名を超える卒業生がいろいろな分野で活躍しています。今回は、二名の方に卒業後の歩みや近況、そして将来の夢について寄稿していただきました。

坂橋矢波



(普 18 期生)

「初めて出会った者同士が肩を寄せ合い、同じ楽譜を覗き込み、息を合わせて一つのメロディーを奏てる。喜び、悲しみ全てを心の中でイメージを広げて同じ時を過ごす。老若男女、肌の色は関係ない。奏てる音を聴けば相手の人となりや何を考えているのかさえも解かってしまう。」それが出来る音楽は、世界共通の言語だと思います。

これまで、コンサートでたくさんの方に行きました。アメリカ、中国、ヨーロッパ等、数えてみれば二十カ国は超えて

いるでしょう。中でも、大学の客員教授をさせていただいている台湾には毎年行っています。

台湾の学生にフルートを通して音楽を教えることで、打ち解け合い仲間意識が生まれます。昨年、指導している日本の大学生を連れて訪れたのですが、彼らもまたすぐに互いを受け入れていました。私は常々「早いうちに外国に行きなさい」と言っています。「井の中の蛙」であることが、差別や偏見に繋がることもあります。しかし、海外で同年代の者と付き合うこと、そして互いの文化や考え方を理解しあうことがそれらを無くすと考えるからです。

今年、私はレバノンに行きました。ニュースなどで耳にするこの国は、中東の紛争地域にあります。ニースなど耳にするところも達し、子ども達にプレゼントするつもりです。

今年、私はレバノンに行きました。ニュースなどで耳にするこの国は、中東の紛争地域にあります。ニースなど耳にするところも達し、子ども達にプレゼントするつもりです。私の周囲の反応はご想像にお任せしますが、本数えてみれば二十カ国は超えて



演奏を終えての交流

えない所にしたい」と思い願うことで、やがては紛争も無くなります。一本のリコーダーが平和な世の中を創ることだってあり得るのです。音楽には未知なるパワーがあると思っています。私はこれからも、その音楽の伝道者として歩んでいくつもりです。そして母校の國學院栃木に微力ながら寄与できたらと願つてやみません。

約五年間、世界でもトップクラスのサービスを誇るホテルで働いたことは旅館業にも十分反映できると考え、実家に戻って二年間、素晴らしいサービスを提供できる旅館へ改革しようと必死に努力しました。しかし、私の力量不足によりサービスに関わっている殆どのスタッフが退社という結果となってしましました。ホテルと旅館は、「似て非なるもの」と本当に理解できたのはその時でした。当たり前のことですが、お越しいただいているお客様も旅館に来るのであって、いわゆるシティーホテルに来ているのではなかったのです。お客様に対し、温泉旅館は温泉旅館として素晴らしいサービスのアプローチがあり、そこには従事しているスタッフに對しても、ホテルと旅館のサービスの違いで甲乙を付けるのは愚かな行為だと知りながらも

小野真



(普 28 期生)

在学当時の私は、決して成績が良いとは言えず、品行方正で

在学当時の私は、決して成績が良いとは言えず、品行方正でないと思います。授業が無いため当然子ども達は笛など持っていないと思うので、授業で使うリコーダーは人數分を日本で調達し、子ども達にプレゼントするつもりです。私は「渡航の是非を検討するように」との勧告が出ていました。私の周囲の反応はご想像にお任せますが、本数えてみれば二十カ国は超えて

県鬼怒川温泉にある旅館に戻りました。東京での営業を経て、二〇〇三年からは現職である専務取締役として旅館経営に携わっております。約五年間、世界でもトップクラスのサービスを誇るホテルで働いたことは旅館業にも十分反映できると考え、実家に戻って二年間、素晴らしいサービスを提供できる旅館へ改革しようと必死に努力しました。しかし、私の力量不足によりサービスに関わっている殆どのスタッフが退社という結果となってしまいました。ホテルと旅館は、「似て非なるもの」と本当に理解できたのはその時でした。当たり前のことですが、お越しいただいているお客様も旅館に来るのであって、いわゆるシティーホテルに来ているのではなかったのです。お客様に対し、温泉旅館は温泉旅館として素晴らしいサービスのアプローチがあり、そこには従事しているスタッフに對しても、ホテルと旅館のサービスの違いで甲乙を付けるのは愚かな行為だと知りながらも

両親、スタッフ、業界の先輩方、そしてお客様から多くのことを学びながら、一経営者として育ててもらっています。このような方々のおかげで、経営者としての今の自分があると思っております。

旅館業界は今、非常に厳しい時代を迎えております。低価格・サービスレスを売りとしている他業種からの参入、旅館業に関する金融情勢の変化、そして次世代を担う後継者不足が深刻な問題となっております。それに加え、多種多様なお客様のニーズ、他業種には無い変則的な労働時間、観光業に従事している人の地位向上、観光業界と地域社会との共通認識を醸成し、いかに連携していくかなど、次代へ向けて解決しなくてはならない事柄が山積みとなっており、現在から将来の旅館業界発展に重く伸しかかってくる大きな課題となっています。



憩いと寛ぎを堪能できる和室

創立 50 周年記念演奏会 ブラスバンド部

五月三日、プラスバンド部による創立五十年記念演奏会を行ないました。

今回は本校創立五十年を記念しての演奏ということなので、現役生と卒業生との合同演奏にしたいと考えました。そこでプラスバンド部四二五名の卒業生に参加を募ったところ、約六十名の卒業生が積極的に賛同してくれました。出演希望者名を見てみると、十期生を先頭に一六期、一八期、一九期生が六名もいること分かり、とても懐かしく、

この出来事は決して忘れてはいけないことと思い、一言述べさせていただきました。旅館だけではなく会社を経営するということは自分と家族、スタッフとその家族、取引業者を含む関係各社、そして地域社会に対する責任があると肝に銘じております。

末筆ながら、國學院大學柄木高等学校の更なるご発展と、窓会皆様のご健勝をお祈り申し上げます。ありがとうございました。
(恩又川、コウトテレビ
した。)



時の流れをしみじみと感じながら練習時間、選曲、構成などを考えました。昨年五月より月一度の練習を継続し、その結果、当日の演奏会では現役生及び卒業生の計七七名による國大柄高サウンドを十分に発揮することができました。会場には木村好成学校長、大栗利夫同窓会長を中心約千名の方々が訪れ、二時間の演奏会は無事終了しました。今回の演奏会では、部活動の

母校創立五十周年記念の同窓会協賛事業の一環として、来る十一月に「卒業生美術展」と題し、現在芸術の分野で大変活躍されている卒業生の作品展を桜木駿削の「桜木学園教育センター」で開催します。心血を注いだ素晴らしい作品が展示されますので期待していて下さい。展示日程と出展者名は、次のようになります。



古澤三夫
ラスバンド部顧問

。会田正子(普十八期)
トールペンイティング
。卒業生合同発表会
併設展 栃木県の芸術家
(清水登之氏・米陀寛氏)
書道
二期 平成二十一年十一月十六日(火)～二十日(土)
○羽鳥益代(普二十三期)彫刻
○五月女佳織(普三十八期)
日本画

卒業生芸術展開催

國學院中のニュージーランド語学研修

語学研修

國學院栃木中学校は平成八年に開校して以来、本年度で十五年目を迎える。学習に力を入れていることはもちろん、人間形成を目標に毎年多くの行事を体験させている。その中で本校にとっての最大の行事は、ニュージーランド語学研修である。この研修は、十四泊十五日の日程で行われ、本校英語教育の中学生間の集大成ともいえる。



毎年どの生徒も緊張と期待を胸に成田空港を出発していく。ニュージーランド、南島最大の都市であるクライストチャーチに到着すると市内観光を経て、語学学校にてホームステイ先にそれぞれが分かれて行く。ホストファミリーを前にすると生徒たちの緊張は高まる。



平日の午前中は、語学学校で授業。午後はアクティビティを観光したり、カヌーや南極センターなどの体験学習と体育活動が日課である。

（生徒の感想より）

「初の海外、ニュージーランド。初めての英語漬け。初の親離れ。クリケット、羊の毛狩り、牧羊犬、

ジエットボート、南極センター、カヌー、ネットボール、スカイタワー。初めてだらけの二週間生活で、ほとんど意志を伝えることが出来なくてとても大変でした。でも CCEL の先生方がホストファミリーとの会話のきっかけを作って下さったり、毛狩りや牧羊犬ショーの他にジェットボートや海岸散策など盛り沢山の体験をする。映画の撮影場所としてよく利用されるニュージーランドだけに自然も雄大であり、生徒たちに自然の美しさや壮大さを感じさせてくれる。日曜日は、各自がホストファミリーと過ごし、交流を深める。

二週間後の最終日には、生徒による感謝の気持ちを入れたフェアウェルパーティーが行われ、各々が涙ながらに別れを迎える。その後、ニュージーランド最大の都市である北島のオーバークラウドに移動し、市内観光を経て帰国をする。生徒の中には帰国後もホストファミリーと一緒に連絡を取つて交流を続いている者もいるようである。

毎年どの生徒も緊張と期待を胸に成田空港を出発していく。ニュージーランド、南島最大の都市であるクライストチャーチに到着すると市内観光を経て、語学学校にてホームステイ先にそれぞれが分かれて行く。ホストファミリーを前にすると生徒たちの緊張は高まる。

（高嶋茜さん）

二週間のうち、一番強く感じたことはニュージーランドの多くの自然と人の優しさ。どこを見ても緑が溢れていて、家も自然な感じがしました。公園も遊具が三つくらいで、他はテニスコートが二面はとれるような芝生。どこまでも続く空。のびのび育った野菜。夜まで明るくて散歩が好きなのもわかるなあと思います。またその辺を歩いていると「ハーリ」や「ハロー」と声をかけてくれる人が沢山います。日本では近所付き合いがあまりなくなってしまったし、歩いていても走っていても基本的に挨拶はなし。でもニュージーランドは違う。積極的に話しかけてくれる。深刻そうな顔をして話している人なんてほとんどいません。いつも笑顔です。



本校の様々な行事の中でもニュージーランド語学研修と共に大きくな行事として、毎年九月に行われている國學院祭・文化祭がある。各学年が団結し、展示や合唱の発表をする。

展示物は、書道や自然体験学習での創作活動で作られた作品の展示の他に、学年別にひとつずつ展示物を完成させていく。昨年度は第三学年がディズニーの

明るく楽しいキウイ人は、日本人の何倍も人生を楽しんでいます。うな気がして羨ましくなります。日本がクリエイティブチャーチのように、緑の溢れる豊かな国になつたらもっとといい国になるのになあと思いました。自然を壊さとはきっと木・花・空・心・風。そういう自然なものなんだが豊かさではない。本当の豊かさはビルを建てて、頭がいいのではなく、自然のままの豊かさです。自然を壊してビルを建てて、頭がいいの豈かではない。本当の豊かさはきっと木・花・空・心・風。そういう自然のままで豊かさではない。本当に豊かさではない。本当の豊かさはビルを建てて、頭がいいの豈かではない。自然を壊すことによって、資源を立体制的に表現、また NHK の番組で紹介されたピタゴラスイッチも製作した。第一学年はシールを用いて海外アーティストの絵画をモザイク画で表現した。

また、これらの展示物の他に各学年が合唱を中心とした構成詩を発表した。

毎年多くの方が来校、ご覧いただき称賛を得ています。今年度も各学年が多くの方に見ていただきたくと作品の完成に現在奮闘中である。今年も高等学校の國學院祭と合同で行われ、日時は九月十一、十二日が文化祭、翌週の十八日が体育祭という日程になつている。

（自然体験学習）

五月二十八日から三十日までの二泊三日の日程で、第一学年は国立赤城青少年交流の家、第二学年はダンボール紙を利用して「もののけ姫」のキャラクターを立体的に表現、また NHK の番組で紹介されたピタゴラスイッチも製作した。第一学年はシールを用いて海外アーティストの絵画をモザイク画で表現した。



第二学年はダンボール紙を利用して「もののけ姫」のキャラクターをねぶたに制作、第二学年はダンボール紙を利用して「もののけ姫」のキャラクターを立体制的に表現、また NHK の番組で紹介されたピタゴラスイッチも製作した。第一学年はシールを用いて海外アーティストの絵画をモザイク画で表現した。



た。」と生徒の言葉にも、あるように、友の存在の大ささ、団結の大しさも学んだ。

辛さに負けそうになる自分の弱い心に打ち勝つことができ、全員が登りきった。また、「登山やハイキングはとても辛かったけれど友達と助けあつたり、励ました。きっと一人だったら途中で諦めたり、断念していたと思ひます。頂上に着いたときは達成感に満ち、とても気持ちがよかったです。景色も最高でし

A black and white photograph showing a group of people, including several young men in hats and backpacks, walking along a rocky mountain path. They appear to be on a trek or a school excursion. The terrain is uneven and appears to be volcanic rock.

中学校入試

「時間を守ることの大切さや、自分のわがままが他人にどれだけ迷惑をかけるかが改めてわからました。」というような言葉もあり、自然の素晴らしさや厳しさの他にも多くのことを学んだようである。

平成22年度 一般会計収支予算

収入の部

項 目		予 算 額	前 年 度 予 算 額	比較 増 △ 減 額	備 考
前 年 度 繼 越 金		5,244,541	3,784,647	1,459,894	
会 費	入会金（本年度卒業生）	960,000	1,060,000	△100,000	2,000×480名
	30年会費（本年度卒業生）	12,000,000	13,250,000	△1,250,000	25,000×480名
	30年会費（既卒者）	1,000,000	1,000,000	0	20,000×50名
	年会費（既卒者）	100,000	100,000	0	2,000×50名
基金会計より繰り入れ		37,000,000	4,000,000	33,000,000	母校創立50周年記念事業
雜 収 入		5,459	5,353	106	銀行利子
合 計		56,310,000	23,200,000	33,110,000	

支出の部 (単位：円)

項	目	予算額	前年度予算額	比較増△減額	備考
運営費	印刷費	200,000	600,000	△400,000	
	通信運搬費	2,500,000	2,500,000	0	会報発送・振込料等
	機器備品費	300,000	300,000	0	
	消耗品費	100,000	50,000	50,000	
会議費		300,000	300,000	0	幹事会、本部役員会
事業費(1)	会報出版費	1,200,000	1,200,000	0	
	名簿作成費	150,000	150,000	0	
事業費(2)	学園助成費	3,000,000	3,000,000	0	
	30年集いの会助成費	350,000	350,000	0	
	梅津杯助成費	300,000	300,000	0	
	クラス会助成費	300,000	300,000	0	10,000×30 クラス
	補助費	300,000	300,000	0	國學院祭食券、幼稚園等
記念品費		2,500,000	2,500,000	0	卒業生記念品等
涉外費	涉外費	300,000	300,000	0	なまず後援会等
	広告費	200,000	200,000	0	ラグビー全国大会等
福利厚生費		200,000	200,000	0	
慶弔費	弔慰金	100,000	100,000	0	
	見舞金	20,000	20,000	0	
	通信費	5,000	5,000	0	
積立金	基金会計繰入金	2,000,000	2,000,000	0	
	部活動後援積立金	500,000	500,000	0	
	同窓会50周年記念積立金	500,000	500,000	0	
母校創立50周年協賛事業		37,000,000	4,000,000	33,000,000	寄付金・卒業生美術展
次年度繰越金・予備費		3,985,000	3,525,000	460,000	
合 計		56,310,000	23,200,000	33,110,000	

平成 21 年度 一般会計収支決算

収入の部

項 目		決 算 額	予 算 額	比較増△減額	備 考
前 年 度 繰 越 金		3,784,647	3,784,647	0	
会 費	入会金（本年度卒業生）	1,064,000	1,060,000	4,000	2,000×532名
	30年会費（本年度卒業生）	13,300,000	13,250,000	50,000	25,000×532名
	30年会費（既卒者）	1,160,000	1,000,000	160,000	20,000×58名
	年会費（既卒者）	105,000	100,000	5,000	44名
基金会計より繰り入れ		4,000,000	4,000,000	0	母校創立50周年記念事業
雜 収 入		53,605	5,353	48,252	銀行利子
合 計		23,467,252	23,200,000	267,252	

支出の部 (単位：円)

項 目		決 算 額	予 算 額	比較増△減額	備 考
運営費	印刷費	0	600,000	△600,000	
	通信運搬費	2,145,748	2,500,000	△354,252	会報発送、振込料等
	機器備品費	285,460	300,000	△14,540	
	消耗品費	83,050	50,000	33,050	
会 議 費		274,060	300,000	△25,940	幹事会、本部役員会
事業費 (1)	会報出版費	875,200	1,200,000	△324,800	
	名簿作成費	847,109	150,000	697,109	
事業費 (2)	学園助成費	3,000,000	3,000,000	0	
	30年集いの会助成費	350,000	350,000	0	
	梅津杯助成費	300,000	300,000	0	
	クラス会助成費	170,000	300,000	△130,000	10,000×17 クラス
	補助費	400,440	300,000	100,440	國學院祭食券、幼稚園等
記 念 品 費		2,458,290	2,500,000	△41,710	卒業生記念品等
涉外費	涉外費	74,150	300,000	△225,850	なまず後援会等
	広告費	126,000	200,000	△74,000	ラグビー全国大会等
福 利 厚 生 費		46,242	200,000	△153,758	
慶弔費	弔慰金	54,962	100,000	△45,038	
	見舞金	0	20,000	△20,000	
	通信費	0	5,000	△5,000	
積立金	基金会计繰入金	2,000,000	2,000,000	0	
	部活動後援積立金	500,000	500,000	0	
	同窓会 50周年記念積立金	500,000	500,000	0	
母校創立 50周年協賛事業		3,732,000	4,000,000	△268,000	芸術鑑賞補助
次年度経費・予備費		5,244,541	3,525,000	1,719,541	
合 計		23,467,252	23,200,000	267,252	

平成 22 年度 幹事会(総会)開かる	
窓会幹事会(総会) が六月十九日(土)	平成二十二年度同窓会幹事会(総会)が六月十九日(土)在校第一会議室において開催された。
母校第一会議室において開催された。	議事に先立ち、木村好成学校長から、本年が学園創立五十周年の記念の年であること、総会資料を見ると同窓生より毎年大変な額の寄付を頂いていることへの感謝、そして今年九十八歳となる佐々木周二学園長・名譽校長はご健在で、来年は白寿のお祝いとなる旨の挨拶がなされた。
議事は第一号議案である平成二十一年度事業報告にはじまり、	本年が学園創立五十周年の記念の年であること、総会資料を見ると同窓生より毎年大変な額の寄付を頂いていることへの感謝、そして今年九十八歳となる佐々木周二学園長・名譽校長はご健在で、来年は白寿のお祝いとなる旨の挨拶がなされた。
同窓会創立五十周年年祝賀会のお知らせ	窓会幹事会(総会)が六月十九日(土)在校第一会議室において開催された。

平成二十三年度 入試説明会日程	
〈高校〉	第一回 十月二十三日(土)
第二回 一月八日(土)	併願
第三回 一月二十五日(火)	
〈中学〉	
第一回 十月四日(土)	単願
第二回 十一月六日(土)	併願
第三回 一月二十日(土)	単願・併願
第四回 一月三十日(日)	
第五回 十二月十一日(日)	
第六回 十二月十九日(日)	
（中学）	
第一回 九月二十五日(土)	
第二回 十月十六日(土)	
第三回 十月二十三日(土)	
第四回 十一月三日(水祝)	
（高校）	
第一回 一月六日(木)	単願
第二回 一月八日(土)	併願
第三回 一月二十五日(火)	
第四回 二月四日(土)	単願推奨・適性検査
第五回 二月十一日(土)	四科・二科
第六回 二月二十四日(日)	四科・二科

第九期卒業生の皆様へ	
尚、新たに承認された副会長・理事は以下の通りである。	号議案の平成二十二年度事業計画案、続いて第四号議案平成二十二年度収支予算案と順次すすみ、審議・承認された。
副会長 山縣博司氏(十一期)	第五号議案である新理事委任についてでは、新たに副会長一名と二名の本部役員理事が推薦され、承認された。第六号議案である母校創立五十周年記念協賛事業についてでは、栃木駅前の母校教育センターにおいて、十一月に卒業生美術展の開催や「ことばの力—歴史・宗教・文學」の演題で五十周年記念講演会を催すこと。さらに五十周年記念祝賀会の開催などが本部より提案され、承認を得た。
理事 渡邊俊夫氏(十八期)	最後に、平成二十二年十一月二十七日(土)、栃木グランドホテルで十八期生の卒業三十年集いの会が開かれるとの報告があり、会は滞りなく終了した。
平成二十三年度 入試日程	
（高校）	第一回 一月六日(木) 単願
第二回 一月八日(土)	併願
第三回 一月二十五日(火)	
（中学）	
第一回 一月四日(土)	単願
第二回 一月十一日(土)	併願
第三回 一月二十三日(日)	
（高校）	
第一回 一月六日(木)	単願
第二回 一月八日(土)	併願
第三回 一月二十五日(火)	
第四回 二月四日(土)	単願推奨・適性検査
第五回 二月十一日(土)	四科・二科
第六回 二月二十四日(日)	四科・二科

カムオンライン國學院
体験学習会

（高校）

第一回

八月八日(日)

第二回

八月十二日(日)

（水祝）

編集後記

▼母校も創立五十周年を機に、制服を新しくリニューアルしました。従来の制服に比べ、利便性と素材を考え制作したため、生徒たちの評判はよく、女生徒の入学者数も少し増えました。

▼今年度より、従来の「特別選抜コース」の上に、「特別選抜コース」をつくりました。東京・京都大などの旧帝大や国立大の医学部への合格を目指し

▼市町村合併により、栃木市・大平町・藤岡町・都賀町が合併し、「新栃木市」となると同時に市長・市議会議員の改選が去る五月に実施され、母校の卒業生五人が市議会議員に当選しました。心より祝すと共に、今後の活躍を期待したいと思います。

▼母校に今年度から高校生を対象とした寮が出来ました。男子「二杉寮」は、三十五名収容で

きます。寮の完備によって、より遠方の生徒も受け入れ可能となり、喜ばしい限りです。

窓会報「むらさき」や、その他の方でお知らせ致しますので、是非ご参加下さい。

詳細につきましては、後日同窓会報「むらさき」や、その他の方でお知らせ致しますので、是非ご参加下さい。